



だんぼ通信

平成 30 年 8 月 15 日発行



西日本豪雨 災害ボランティアに行ってきました

勝手口の 50～60 cm 四方のフローリングのふたを開き、高さ 70 cm あまりの真っ暗な床下に入る。ヘッドライトを身につけ、要所に置いたランタンの灯りを頼りに、腹這いになり現場へ…。

防卒ボランティアネットワークは、うめさろんの HP・メール・チラシで市民に災害ボランティアの参加者を募集。7 月 15 日に 14 名のボランティアと共に西日本豪雨により浸水した久留米市北野町の被災地の住宅に入りました。



ボランティアの活動内容は床下に溜まっている水の除去。大量のバケツ、雑巾、スポンジを持ち込み、狭い入口から 5～6 人が床下へ入り、水を吸わせて雑巾などをバケツに入れ、流れ作業で地上へ。地上では残りの者で雑巾を絞り、前線へ送り返す。この作業の繰り返し。当然、作業は腹這い状態。30～40 分で地上と床下を交代し、一区画が終了すると、さらに奥の区画へと進む。

この日は素晴らしいチームワークにより 2 件の住宅の活動を終了することができました。皆さん、お疲れさまでした。



私たちも、多くの現場に入りましたが、活動内容は、災害の種類や場所、建築物等により異なることを、改めて実感いたしました。

床下は頭を上げるスペースもなく極狭…。気温は 35 度を超えて、蒸し風呂状態の中での作業でした



コーディネーター
原 田

太宰府市がめざす協働のまちづくり

前回のだんぼ通信では、「協働」とは立場の異なる複数の主体が、共通の目的のために、それぞれの特性を活かしながら、対等な関係で相互に努力し、課題を解決していくという市民参加の考え方、またはその手法…であることをお話ししました。

3回目の今回は、**なぜ「協働」なのか？**ということについてお話ししたいと思います。

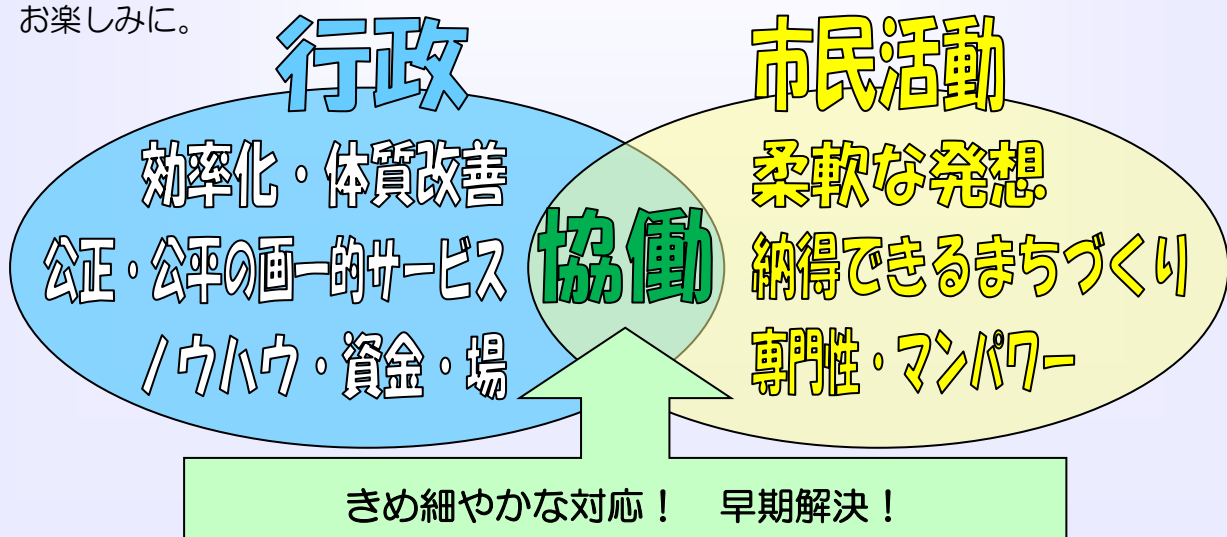
以前は、高度成長期やバブル期など豊かな税収があり、それに基づき安定した公共サービスが行政から提供されていました。その後、バブル崩壊や阪神淡路大震災などにより税収は減り、少子高齢化などの影響もあり、公共サービスは縮小や見直しを余儀なくされることに……。増えてきたさまざまな社会課題やニーズの多様化などもあり、行政が全ての課題に対応することは、すでに限界を迎えています。

このような課題や新たなニーズなどを市民の力で解決しようと、NPO・ボランティアの自主的な活動が盛んになってきました。太宰府でもたくさんのNPO・ボランティア団体や個人の方が活躍されています。また、企業や事業所、学校や地域コミュニティなども、さまざまな形で公益活動に取り組んでいます。

ですが、多種多様な組織がそれぞれに活動していると、場合によっては効率が悪いこともあります。そこで、これらの社会課題の解決または公益の増進のためには、行政とNPO・ボランティアの特性を活かし、ともに取り組む「協働」という考え方が必要になってきたのです。

なぜ今「協働」が必要なのか、お分かりいただけましたか？

次号（10/15号）：「協働」のパートナーについての理解
お楽しみに。



活動紹介

防宰ボランティアネットワーク

団体の成り立ちや活動内容、今後の目標について、^{とうまさのり}藤政統代表にお話を伺いました。

2003年に防災士という資格ができたあと、太宰府を中心に活動する防災士と、防災に関心があるメンバーが集まり2012年から「防宰ボランティアネットワーク」として活動を始めました。現在のメンバーは11名です。(団体名の防宰の「宰」は太宰府の「宰」です)

活動の柱は、市民の方に防災意識を高めてもらうことを目的とした研修や講座の開催、また、実際に災害が起きた場合に被災者のお役に立てればと災害ボランティアの活動へ参加すること、そして、自己研鑽のために勉強会などへの参加やさらに知識を深めていくこと、この3つです。

これまでに得た自分たちの知識と経験を活かし、太宰府で災害が起きた場合、災害ボランティアセンターや避難所で活動できるボランティアの育成やネットワーク形成などを目標に、今後も積極的に活動を続けていこうと思っています。また、機会があれば災害ボランティア活動も継続して行っています。

自然災害はいつどこで起きるかわかりませんが、防宰ボランティアネットワークさんの存在は市民にとって、とても心強いですね。 スタッフ・榊



後段中央が藤代表

災害支援金を朝倉市社協にお届けしました



皆さまの善意が
集まって
6,460円と
なりました！

「『復興には、まだまだ時間がかかります。まだまだ支援が必要です！』と、声を上げたいのですが、先月のような西日本豪雨災害があると、なかなか声を出せないのが現状です。」と、朝倉市社協の方は話されていました。

“支え合いセンター”ができて、細やかな困り事等はそちらの方が対応してくれるようになったので、社協としては助かっているそうです。

「西日本豪雨の災害ボランティアに行きましたが同じ水害とはいえ、地域性があるので、やり方もいろいろなことが違っていました。朝倉のことを忘れられるのが一番怖い、記憶に留めておいてほしい…」とのことでした！

スタッフ 松尾



講座スケジュール

参加費は全て無料です



日時	場所	講座名	講師など
9/8(土) 14:00~16:30	208 号室	地域支援コーディネーター育成講座 「人生の目的を達成するための アドラー心理学を取り入れて」	吉田 久美子
9/15(土) 13:30~15:30	208 号室	NPO法人の設立・運営についての基礎講座 「NPO法人の基礎知識」	行政書士 古杉 昂一
10/20(土) 13:30~15:30	208 号室	NPO法人の設立・運営についての基礎講座 「NPO法人設立の申請書作成について」	行政書士 古杉 昂一

社会福祉協議会&
うめさろん共催

ボランティア講座

ーだざいふでボランティアを楽しもうー

ボランティアを始める

きっかけ作りに！

①基礎編

「ボランティアを楽しく

続けるコツを知ろう！」

日時：9月29日(土)

10時～11時30分

場所：いきいき情報センター210号室



ボランティア活動の基本や心構えを
知り、無理なく続けるコツを学びます

ボランティア団体の活動を

続けるために！

②団体運営編

「悩みを解決する

ヒントを得よう！」

日時：10月27日(土)

10時～11時30分

場所：いきいき情報センター209号室



自分の団体の活動を見直すことで、
課題の原因と解決のためのヒントを
学びます

申し込み・問い合わせは 「うめさろん」 太宰府市NPO・ボランティア支援センターまで

太宰府市五条3丁目1番1号 いきいき情報センター 2階

平日 10:00～18:00 土曜日 12:00～18:00

(休業日 毎週日曜日、祝日、毎月最終水曜日、

8月13日～15日、12月28日～1月4日)

TEL 092-918-3633 FAX 092-918-3644

E-mail : dazaifu-volusen@wish.ocn.ne.jp

HP <http://dazaifu-volusen.sakura.ne.jp/>

